

WordPress

ローカル環境 構築ガイド

Local (5シリーズ)



エビスコム 編著

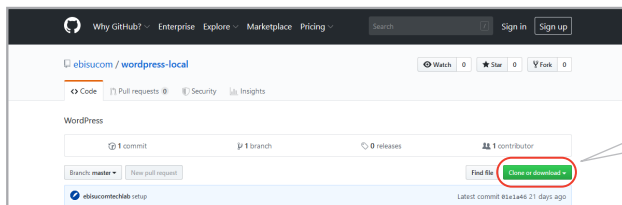


CONTENTS

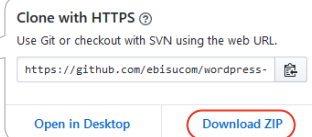
1	3シリーズと5シリーズ.....	3
2	WordPressのローカル環境	4
3	Local を開発している Flywheel とは?.....	4
4	Localを導入する前の確認事項	5
5	Localのインストール	5
6	WordPress環境の作成.....	7
7	WordPressへのアクセス.....	13
8	Local の終了と再起動	16

本書は下記の GitHub で配布している PDF です。

再ダウンロードする場合、git を使っていただくか、「Clone or download」ボタンをクリックして「Download ZIP」を選択します。



「Clone or download」ボタンをクリック。



「Download ZIP」を選択。

ダウンロード&サポート

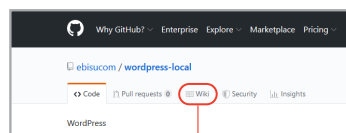
<https://github.com/ebisucom/wordpress-local>

※ 本書の内容に関してご意見などありましたら、下記のアドレスにご送付ください。

※ 個別に返答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

※ サポートが必要な場合は上記ページの Wiki にて対応させていただきます。

ep@ebisu.com



Wiki

- ・ 本書に記載した情報や URL は 2020 年 3 月 4 日時点のものであり、ご利用時には変更されている場合があります。
- ・ 本書中に掲載している画面イメージは、特定の設定に基づいた環境で再現される一例です。ご利用の環境によっては本書通りの画面にならないことがあります。
- ・ 本書の内容については正確な記述につとめました。内容に関してなんらかの保証をするものではなく、誤りや不正確な記述がある場合も、エビスコムはその一切の責任を負いません。
- ・ 本書の内容に基づいていかなる運用結果についてもエビスコムは一切の責任を負いません。お客様自身の責任と判断において運用を行ってください。
- ・ 本書は著作権法上の保護を受けています。本書のいかなる部分についても、エビスコムとの書面による同意なしに複製、複製、転載することは禁じられています。
- ・ 本書中に登場する会社名、商品名、ロゴは、該当する各社の商標または登録商標です。本書中では® および TM マークは省略させていただいております。

1

3シリーズと5シリーズ

これまでの Local by Flywheel は、VirtualBox を使った仮想環境の上で Docker を利用していました。これが **3 シリーズ** です。

これに対して仮想環境の利用をやめ、「よりシンプルに」、「より高速に」を目指して、Local Lightning として開発されてきたのが **5 シリーズ** です。

5.2 からは安定版として公開されましたので、このドキュメントも 5 シリーズに対応したものと書き直しています。

従来の 3 シリーズに関しては、前のドキュメント (wordpress-local-3series.pdf) を参照してください。

また、公式でも

3 シリーズ を「**Local by Flywheel**」

5 シリーズ を「**Local**」

と呼ぶ形になりましたので、このドキュメントでも、これになっています。



Migrating from Local by Flywheel to Local "Lightning"

<https://localwp.com/help-docs/migrating-from-local-by-flywheel-to-local-lightning/>

2

WordPressのローカル環境

WordPress のテーマを制作する際に、サーバーとは別にローカルな環境があると非常に便利です。ローカルな環境としては、これまでも XAMPP を始めとして様々な環境がありましたが、現在の主流は Local です。

Local が人気のある理由は、PHP や MySQL のバージョンを自由に組み合わせて WordPress サイトを簡単に立ち上げることができるためです。もちろん、複数の WordPress サイトを立ち上げることも可能ですし削除するのも簡単です。

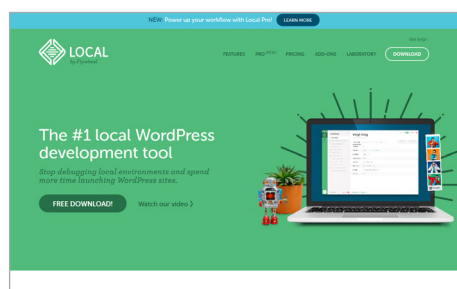
そこで、Local の導入方法を解説していきます

3

Local を開発している Flywheel とは？

Flywheel は、WordPress のホスティングサービスです。このホスティングサービスで利用する WordPress 環境をローカルで準備するための用意されたのが、Local です。

単に WordPress を起動できるだけではなく、ホスティングサービスを再現するための様々な機能が用意されています。



Local

<https://localwp.com/>

4

Localを導入する前の確認事項

これまでの Local by Flywheel と異なり、Local では動作環境の条件が大幅に緩和されています。

必要スペックは以下のとおりです。また、Linux 版も用意されています。

macOS

- 4GB RAM
- 1GB ディスクスペース
- macOS 10.13 High Sierra 以降

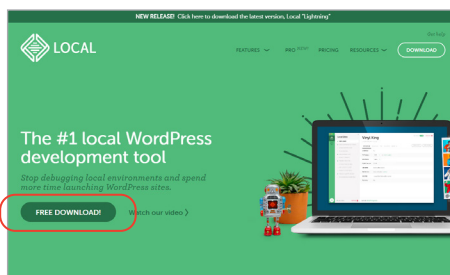
Windows

- 4GB RAM
- 1GB ディスクスペース
- Windows 7、8、8.1、10

5

Local のインストール

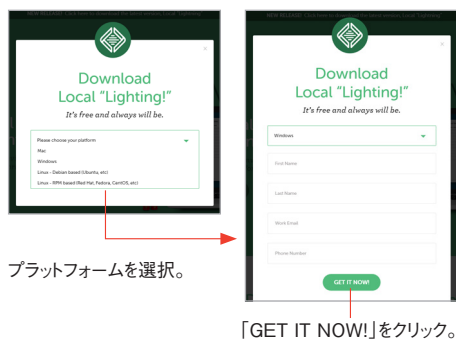
- ① Local のページを開き、「FREE DOWNLOAD!」をクリックします。



Local

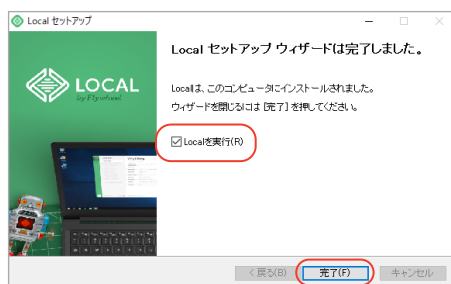
<https://localwp.com/>

- ② フォームが開きますので、プラットフォームを選択の上、必要事項を入力して、「GET IT NOW!」をクリックしてダウンロードします。



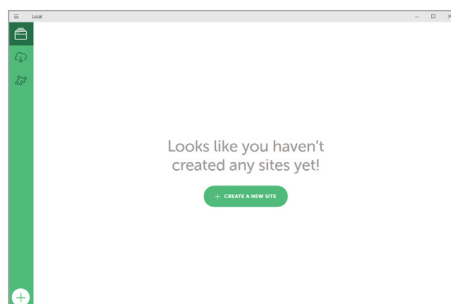
- ③ ダウンロードが完了したら、ソフトを実行してインストールを始めます。

無事にインストールが終わると、右のような画面になります。「Local を実行」を選択したまま、完了をクリックします。



すると、右のようなウィンドウが開き、Local が起動します。

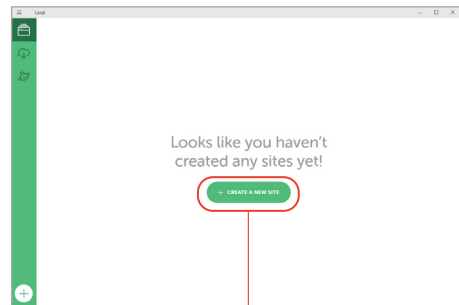
最初の起動時にエラーが表示されることがありますが、Local を起動しなせば、問題はないようです。また、初回の起動時には、Local Pro の説明が入ります。



6

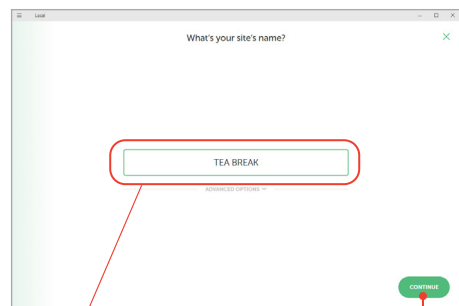
WordPress環境の作成

- ① WordPress 環境を作成していきます。
「CREATE A NEW SITE」をクリックします。



「CREATE A NEW SITE」をクリック。

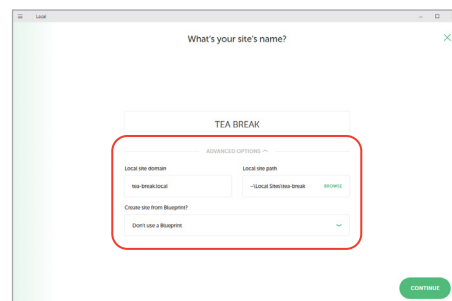
- ② 立ち上げる WordPress のサイト名を入力します。ここでは「TEA BREAK」と入力しています。



サイト名を入力。

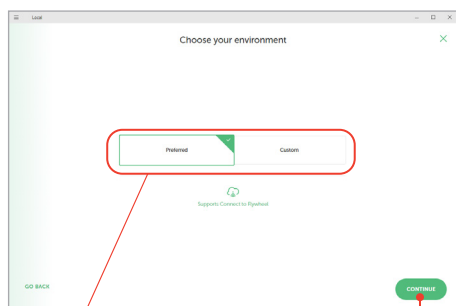
「CONTINUE」をクリック。

サイト名を入力する画面の「ADVANCED OPTIONS」では、ローカル環境で利用できるサイト名やサイトのデータが保存されるパスの指定、雛形がある場合には利用する雛形の指定が可能です。



ADVANCED OPTIONS。

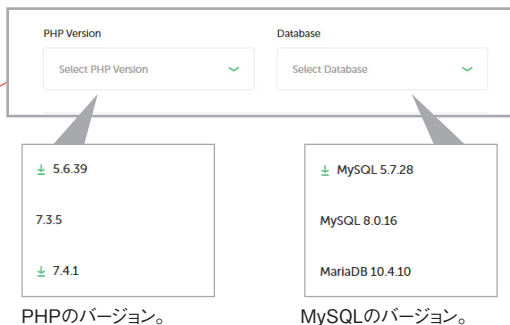
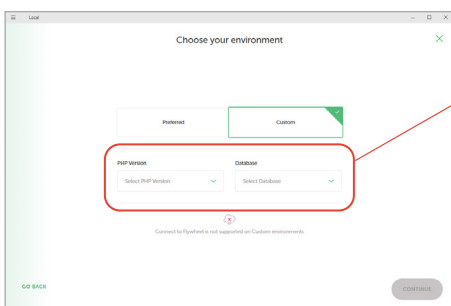
- ③ 続いて、WordPress の構成の設定です。
「Preferred」を選択すると標準設定でのインストールになります。
「Custom」を選択すると、PHP や MySQL のバージョンを選択できます。



「Preferred」または「Custom」を選択。ここでは「Preferred」を選択しています。

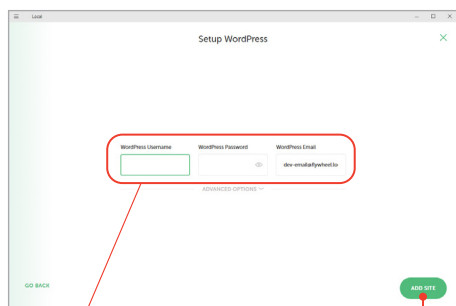
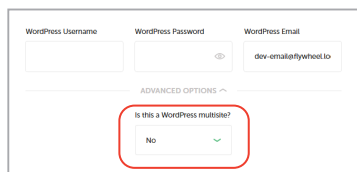
「CONTINUE」をクリック。

「Custom」を選択したときに設定できる項目



- ④ WordPress のユーザー名とパスワード、メールアドレスを入力します。
以上の設定ができたら、「ADD SITE」をクリックします。

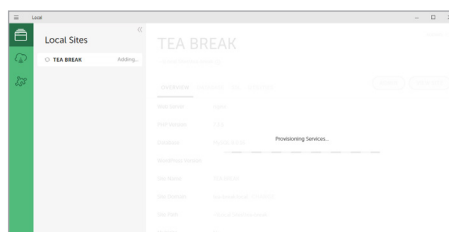
マルチサイトにするかの設定もここで行なえます。



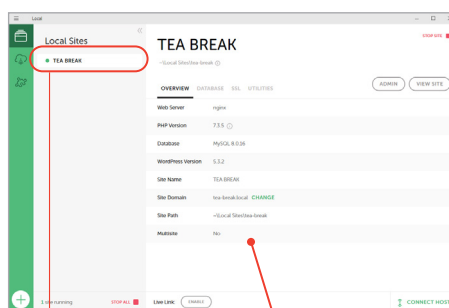
ユーザー名、パスワード、メールアドレスを入力。

「CONTINUE」をクリック。

- ⑤ WordPress サイトの構築が始まります。
途中で、Firewall やアプリケーションの処理
の確認を求められますので、必要に応じて許可
してください。



- ⑥ しばらくすると設定が完了し、サイトが起動し
た状態で右のような画面が表示されます。



サイトを選択。

サイトの情報。

OVERVIEW

「VIEW SITE」をクリックすると、ブラウザが起動してサイトが表示されます。
「ADMIN」をクリックすると、WordPress の管理画面へアクセスします。
設定したユーザー名とパスワードで WordPress の設定を完了してください。

サイト名の下に表示されているのが、サイトのデータのパスです。クリックするこ
とで簡単にアクセス可能です。



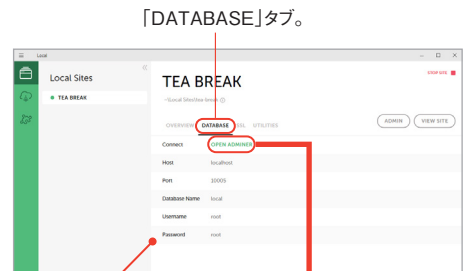
DATABASE

「DATABASE」タブでは、DATABASE に関する情報を確認できます。

Adminer を利用することができますので、DATABASE を直接操作することも可能です。

Adminer はブラウザから利用できるデータベース管理ツールです。

<https://www.adminer.org/>



データベースに関する情報。

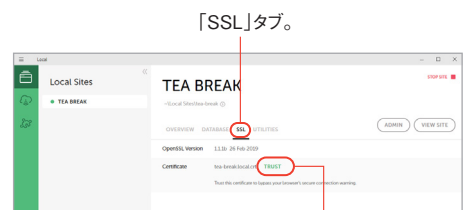
「ADMINER」をクリック。



Adminerが開きます。

SSL

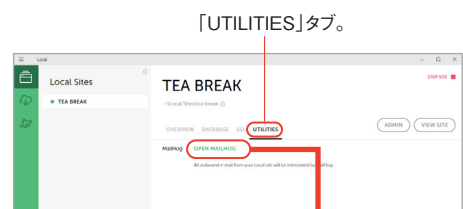
「SSL」タブで TRUST をクリックすることで、サイトの SSL 化も可能です。



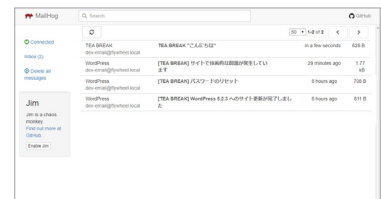
SSL化する場合は「TRUST」をクリック。

UTILITIES

「UTILITIES」タブでは、MailHOG を利用できます。MailHOG はテスト用の SMTP サーバーで、WordPress のメールまわりのテストもできるようになっています。

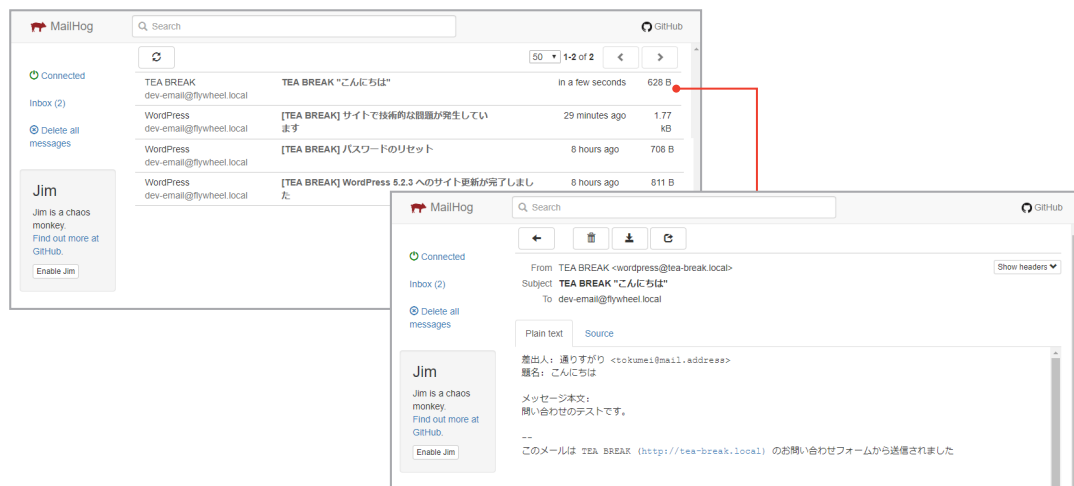


「OPEN MAILHOG」をクリック。



MailHOGが開きます。

たとえば、設置したフォームをテストする場合、フォームから送信したメッセージは MailHog で確認できます。同様に、WordPress がシステムから送信してくるメール（アップデートの情報やパスワードのリセットなど）も、MailHOG で確認できます。



フォームから送信したメッセージ。

ただし、「WP Multibyte Patch」プラグインが有効化されている場合、メールが文字化けします。これは、「WP Multibyte Patch」が有効になることで、メールを送信する際の文字コードが JIS になるためです。

WP Multibyte Patch

<https://eastcoder.com/code/wp-multibyte-patch/>

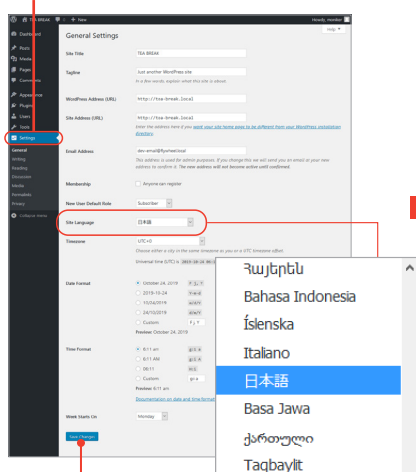
文字化けを防ぐためには、上記のページを参考にして文字コードを UTF-8 に変更するか、フォームなどの確認の際には「WP Multibyte Patch」プラグインをオフにする必要があります。

```
/**
 * wp_mail() の文字エンコーディング
 *
 * この設定は WordPress から wp_mail() を通して送信されるメールに適用されます。
 * 指定可能な値は、'JIS'、'UTF-8'、'auto' です。
 * この設定は $wpmp_conf['patch_wp_mail'] が false の場合は無効となります。
 */
$wpmp_conf['mail_mode'] = 'JIS';
```

WordPressの日本語化

Local で作成した WordPress は P.9 の手順で管理画面を開き、次のように日本語化の設定を行います。

「Settings」を選択。



「Save Changes」をクリック。

Site Languageで「日本語」を選択。



設定ができれば「変更を保存」をクリック。

タイムゾーンで「UTC+9」または「東京」を選択。



日本語環境のために用意された日付と時刻のフォーマットを選択。

さらに、[ダッシュボード]で WordPress のバージョンを確認し、必要に応じて最新版に更新します。更新は [ダッシュボード>更新] で行います。



WordPress 5.2.4 (Twenty Nineteen テーマ)

WordPressのバージョンを確認。

7

WordPressへのアクセス

立ち上げた WordPress サイトにアクセスする場合、Local にはちょっとした制限があります。

Local が稼働している PC からアクセスする場合は、すでに試したように「VIEW SITE」をクリックするか、設定されている「Site Domain」を使ってアクセスできます。

ところが、Local が稼働している PC とは違うデバイスからアクセスする場合には、同じ LAN 上にいるかどうかに関わらず、「Site Domain」ではアクセスできません。

そのため、他のデバイスからアクセスする場合には、Local に用意されている、サイトをインターネットに公開する機能を利用します（残念ながら LAN 内で完結することはできません）。

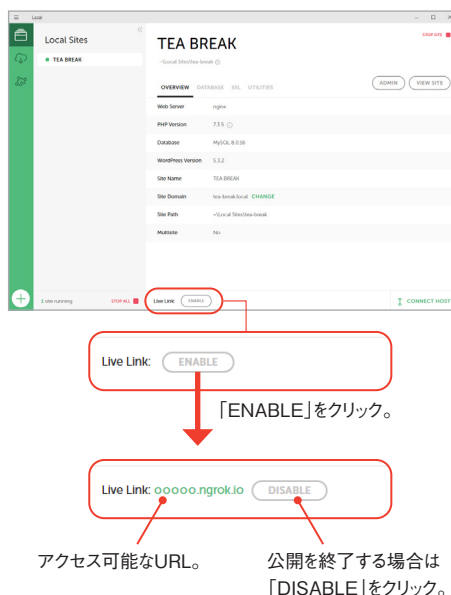
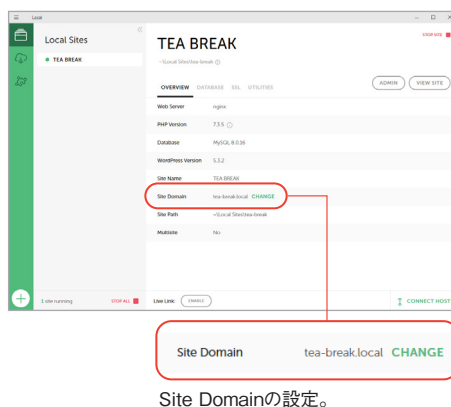
サイトの情報が表示されている下にある、「Live Link」の「ENABLE」をクリックします。

すると、URL が発行されますので、この URL でアクセスが可能になります（URL はその都度変わります）。

この機能は、ngrok のサービスを利用したもので、ローカル PC の特定のポートを簡単にインターネットに公開することができます。

<https://ngrok.com/>

「DISABLE」をクリックすると、公開が終了します。



ローカルアクセス

どうしてもローカルアクセスしたい場合には、以下の問題をクリアする必要があります。
環境に応じて準備しなければならないものが変わりますので、ここではヒントだけ。

Local をインストールしたホストマシンの hosts ファイルを確認します。

```
## Local by Flywheel - Start ##
::1 tea-break.local #Local Site
127.0.0.1 tea-break.local #Local Site
::1 www.tea-break.local #Local Site
127.0.0.1 www.tea-break.local #Local Site
::1 sample.local #Local Site
127.0.0.1 sample.local #Local Site
::1 www.sample.local #Local Site
127.0.0.1 www.sample.local #Local Site
## Local by Flywheel - End ##
```

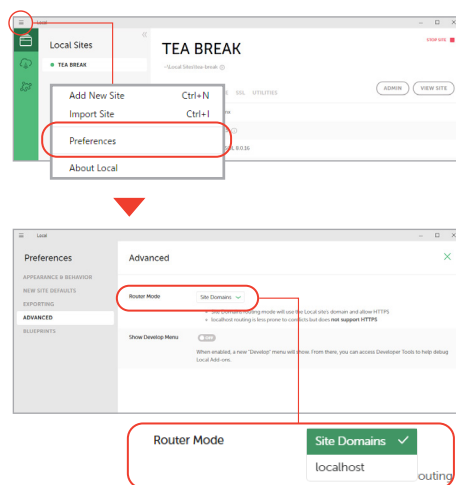
といった形で、Local による設定が確認できます。そこで、ここに並んでいるホスト名で、Local が起動しているマシンにアクセスできるように、環境を整える必要があります。

たとえば、LAN 上の各デバイスの hosts に追加するのもありですし、dnsmasq といった DNS サーバーを用意するのもお手軽です。

ルーターモード

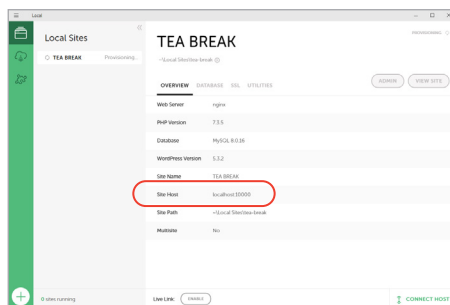
新しく、ルーターモードを切り替えられるようになりました。これまでの、「Site Domains」というモードに加えて、「localhost」というモードが追加されています。

左上のメニューから「Preferences」を選択し、「Advanced」を開くと、「Router Mode」で切り替えることができます。



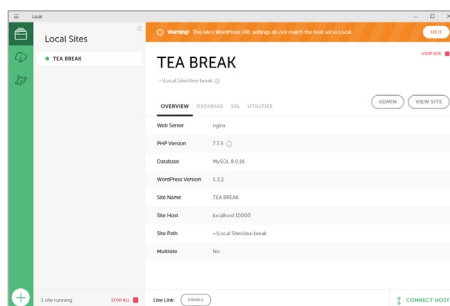
「localhost」モードでは、次の形でアクセスできるようになります。

```
localhost:10000
```



そのため、IP アドレス&ポート番号でのアクセスも可能になります。

これに合わせて、WordPress の URL の設定を IP アドレス & ポート番号に書き換えることで、LAN 上の他のマシンからアクセスできるようになります。ただし、Local が localhost:10000 の形に戻そうとしますので、現状ではあまりおすすめできません。

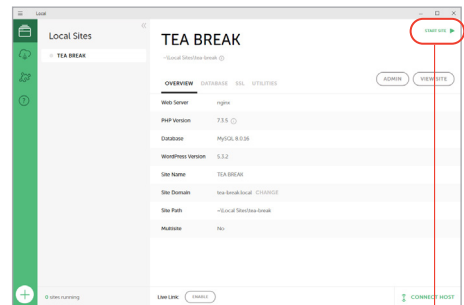


8

Local の終了と再起動

Local を終了すると、WordPress サイトがすべて終了します。

Local を再起動した場合、WordPress サイトは起動しませんので、必要に応じて起動する必要があります。



Localを再起動した
ときの状態。

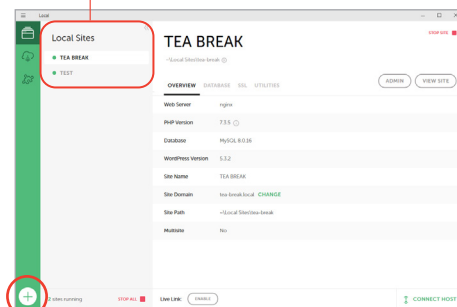
START SITE ▶

「START SITE」をクリックして
WordPressサイトを起動します。

WordPressサイトの追加

WordPress サイトは「Add Local Site」をクリックして追加していくことができます。追加されたサイトの一覧は Local Sites に表示されます。

サイトの一覧。



「Add Local Site」でサイトを追加。

WordPress 5.x のブロックエディタ「グーテンベルク（Gutenberg）」を活かし、テーマの作成&サイト構築を行う書籍です。



WordPressレッスンブック 5.x対応版

印刷書籍

フレキシブルボックス

グーテンベルクの働きを確認しつつ、ひとつひとつ必要な設定をしながらテーマを作成していく1冊。

<https://ebisu.com/wplesson/><https://amzn.to/2C6GGe4>

グーテンベルク時代のWordPressノート テーマの作り方 (入門編)

オリジナル電子書籍

CSSグリッド

kindleunlimited

グーテンベルクを活かしたオリジナルテーマの作成方法をステップ・バイ・ステップで解説。

<https://ep.ebisu.com/wordpress-note/><https://amzn.to/2HrewxK>

グーテンベルク時代のWordPressノート テーマの作り方 2 (ランディングページ&ワンカラムサイト編)

オリジナル電子書籍

CSSグリッド

kindleunlimited

グーテンベルクを使う方法、使わない方法の両方でランディングページ&ワンカラムサイトを作成。

<https://ep.ebisu.com/wordpress-note-lp/><https://amzn.to/2M0SVz3>



エビスコのオリジナル電子書籍

実践シリーズ

Adobe XD で作成されたデザインカンプと指示書に従い、Web ページをコーディングしてみる実践シリーズです。



オリジナル電子書籍

kindleunlimited

HTML&CSS コーディング・プラクティスブック 1

実践シリーズ with Flexbox

Level 

- ✓ コーポレート系サイト
- ✓ Flexbox でレイアウト
- ✓ IE11 対応 (Polyfill なし)

 <https://ep.ebisu.com/practice01/>

 <https://amzn.to/2Rk20bP>



オリジナル電子書籍

kindleunlimited

HTML&CSS コーディング・プラクティスブック 2

実践シリーズ with Flexbox

Level 

- ✓ カフェ系サイト
- ✓ Flexbox でレイアウト
- ✓ IE11 対応 (Polyfill 使用)

 <https://ep.ebisu.com/practice02/>

 <https://amzn.to/2u0F5FI>

■ 著者

エビスコム

<https://ebisu.com/>

さまざまなメディアにおける企画制作を世界各地のネットワークを駆使して展開。コンピュータ、インターネット関係では書籍、デジタル映像、CG、ソフトウェアの企画制作、WWW システムの構築などを行う。

主な編著書：『HTML&CSS コーディング・プラクティスブック 1』EP EBISUCOM 刊
『HTML&CSS コーディング・プラクティスブック 2』同上
『グーテンベルク時代の WordPress ノート テーマの作り方（入門編）』同上
『グーテンベルク時代の WordPress ノート テーマの作り方
（ランディングページ&ワンカラムサイト編）』同上
『CSS グリッドレイアウト デザインブック』マイナビ出版刊
『HTML5&CSS3 デザイン 現場の新標準ガイド』同上
『6 ステップでマスターする「最新標準」HTML+CSS デザイン』同上
『これからの「標準」を学ぶ マルチデバイス対応サイト構築』同上
『WordPress レッスンブック 5.x 対応版』ソシム刊
『フレキシブルボックスで作る HTML5&CSS3 レッスンブック』同上
『CSS グリッドで作る HTML5&CSS3 レッスンブック』同上
『HTML5&CSS3 ステップアップブック』同上
ほか多数

■ STAFF

編集・DTP・カバーデザイン：エビスコム

WordPress ローカル環境 構築ガイド

2019 年 11 月 8 日 ver.1.0 発行

2020 年 3 月 4 日 ver.2.0 発行

著者 エビスコム

発行 EP エビスコム [Electronic Publishing EBISUCOM]

<https://ep.ebisu.com/>